

1 めざす学校像

「学業」「マナー」「課外活動」のバランスがとれ、しかも生徒が、自由に伸び伸びと個性を生かせる極めて上質の普通の学校を目指す。

- ①グローバルな人材育成の観点から、生徒の夢の確認とその実現に向けてきめ細かな学習指導、進路指導をする学校。
- ②思いやり・心づかひの気持ちを基に、他人に迷惑をかけず社会的ルール、校内ルールを守る生徒を育成する学校。
- ③生徒自身が自己肯定感を持てるよう、自分で目標設定し、それを達成していくことで得られる自信、また、失敗しても繰り返し挑戦するという意欲、自分自身、自分の周囲の人たちを誇りに思えるような生徒の育成。

2 中期的目標

1. グローバルな人材の育成

- (1) 語学研修の内容の充実、参加への呼びかけと参加人数の定着に向けて。
- (2) ディベート力の習得。「総合的な学習」のなかで年間8時間程度の実施。論理的な思考方法を学ぶ。自分の意見を積極的に表現することができる人材の育成。

2. 学習指導の点検

- (1) 生徒が自ら学ぼうとする「仕掛けづくり」を教員間で共有。
- (2) 家庭学習時間調査を継続して実施し、生徒の自発的な学習時間を伸長させる指導。
- (3) 生徒の自学自習の定着を図る。

3. 「マナー日本一」をめざす。

- (1) 挨拶・言葉づかい・身だしなみ・ルール順守・思いやり・心づかひなどの基本事項を徹底する。
- (2) 通学路、通学電車内の登下校指導を継続し、品位あるマナー・正しい制服着用等の指導を強化する。
- (3) 所属するクラブにおいて、部員としての誇りとその責任を自覚させ、品位ある行動に導く。

3 学校自己評価のまとめ

1. 自然環境に恵まれる中、クラブ活動、学校行事など生徒がのびのびと学校生活を送れている。
2. 11月に生徒・保護者に実施した「学校評価アンケート」では、服装規定遵守・挨拶励行など指導により明らかにプラスへの変化が読み取れた。
3. 総合学習でのディベートは今年も講師を招いて研修をしたが、具体的な教員研修ができて昨年より充実したものになった。
4. 自習室の利用がテスト前だけでなく普段も利用が増えたところは評価できる。
5. 国公立、私学を問わず難関大学への進学実績が安定してきた。特に京都大学に2年連続合格者を出したことをはじめ国公立大学に21名合格したこと、関関同立への合格者も2年連続100名を超えたことは評価できる。
6. 校内に臨床心理士常駐のカウンセリングできる施設（自己開発研究所）があり、生徒のカウンセリング、コンサルテーションを適時行えた。

7. 本年も授業診断を外部の方に来ていただき、一定の評価を得たものの、まだまだ、本校教員だけで授業力を高めていく取り組みまで発展していないので、来年度に向けて自前で授業力を高めていかなくてはならない。

4 本年度の取り組みおよび自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取り組み・内容	評価指標	学校評価
1 グローバルな人材の育成	<p>(1) ア. 語学研修（ニュージーランド）への参加呼びかけと参加人数の定着に向けて</p> <p>イ. 来年度に向けたアメリカ3か月留学の検討、立案。</p> <p>ウ. オーストラリア交換留学（相互に1週間ずつホームステイをするプログラム）の検討、立案。</p> <p>(2) ディベート力の習得。論理的な思考方法を学ぶ。</p>	<p>(1) ア. 今まで年度が明けてからの募集をしていたが、在校生（高校1年生）には早い時期からの参加呼びかけをする。</p> <p>イ. 単に業者任せにせず、他校の資料などを検討すること、教務的な処理（成績単位・出席日数など）を検討。</p> <p>ウ. 異文化体験をしたいが、費用の面でなかなか参加できない生徒に向けた双方が1週間ずつホームステイをするという計画。協力校の選定努力。</p> <p>(2) 総合学習で各学年、各クラスでディベートの発展を学ぶ。</p>	<p>(1) ア. 語学研修への参加人数。</p> <p>イ. 具体的な計画の発表。</p> <p>ウ. 具体的な計画の発表。</p> <p>(2) 実施回数、生徒の取り組み状況。</p>	<p>(1) ア. 一時期は低迷していた参加人数が今回は20名になった。訪問校を固定し、生徒の中にはリピーターができるなど、一定の評価ができる。事前学習（現地での心得・英会話）、事後学習も実施したのも参加人数増加につながった。保護者に対する説明も生徒と一緒に受けてもらうことによって生徒と現地での起こりうるトラブルについて共通理解が深まった。</p> <p>イ. 計画が妥当と評価。来年度に向けて募集活動の準備に入る。</p> <p>ウ. 計画が妥当と評価。来年度に向けて募集活動に入る。</p> <p>(2) 今年度も総合学習係（教員）が年間8時間の教案を</p>

				作成し、「総合学習」の時間に年間8回実施した。内容のレベルももう少しはあげられるようである。実際のレベルにたどり着くまで教員も研修・実践が必要である。
2 学 習 指 導 の 点 検	<p>(1) 教員の授業力強化</p> <p>(2) 生徒の家庭学習時間を延ばす。</p>	<p>(1) 外部指導員から授業を参観してもらい、指導を受ける。研究授業を実施。相互授業見学と講評会の実施。</p> <p>(2) 生徒の家庭学習時間を伸ばす。</p>	<p>(1) 参観される授業の客観的な評価点。研究授業の回数。相互授業参観の実施回数と講評会の内容と評価点。</p> <p>(2) 生徒学習時間の実際の伸び率。</p>	<p>(1) 昨年と同様、9月と11月に研究授業と相互参観授業が実施された。研究授業はそれぞれ5回、相互参観授業は9月11月を合わせると30名以上の教員が参観され、また参観したことになる。9月の方は外部指導員は参観せず、教員だけで実施することができた。学内の指導的立場の者がさらに的確な評価をすることができるようになってきた。</p> <p>(2) ベネッセのスタディサポートによる調査結果。1年生、2年生とも基準値が「2時間」のところに来ており、順調に家庭学習時間は増えている。ただ、自宅で「ほとんどしない」が数値は減少したものの1年生では10%、</p>

	(3) 自学自習の定着を図る。	(3) 自習室を中心とした学内での学習時間の確保。参加呼びかけ。	(3) 自習室、及び他の場所（図書室、教室）での自習者の参加状況。	2年生では12%いる。 (3) 確実に増加傾向にあるので、クラスでの取り組みも含めた参加人数の統計が必要だ。
3 マ ナ ー 日 本 一 を め ざ す	(1) 挨拶などの生活の基本事項を徹底させる。 (2) 登下校指導・服装頭髪規定順守などの生活指導に取り組む。	(1) 校長自ら高校校舎玄関前に立ち、生徒に朝の挨拶をする。また、運動部員を中心に顧問から挨拶・礼儀の指導をしてもらう。また、一般教員も生徒に必ず挨拶をする。 (2) 最寄りの駅近くの立ち番をさらに強化する。また、服装頭髪規定を遵守させるため、生徒指導の教員が下校指導の際に服装頭髪指導も行う。	(1) 生徒・保護者アンケートからの「挨拶は自分から心がけているか」の項目における割合。 (2) 登校時、下校時の立ち番の場所・頻度。 生徒・保護者学校評価アンケートの数値。「服装・頭髪など学校の規則を進んで守っている。」	(1) 高校1年生・2年生のアンケート（全コース）からは82%（特にそう思う38%、そう思う44%）で、昨年よりも明らかに「挨拶をする生徒の数」が一定の数字に表れてきたようだ。 (2) 生徒アンケート結果によると「服装・頭髪など、学校の規則を進んで守っている」の数値が（全コース）93%（特にそう思う53%、そう思う40%）、保護者アンケート（全コース）の結果は「学校の生活指導（服装・頭髪検査・挨拶など）に共感できる」89%（23%、66%）。

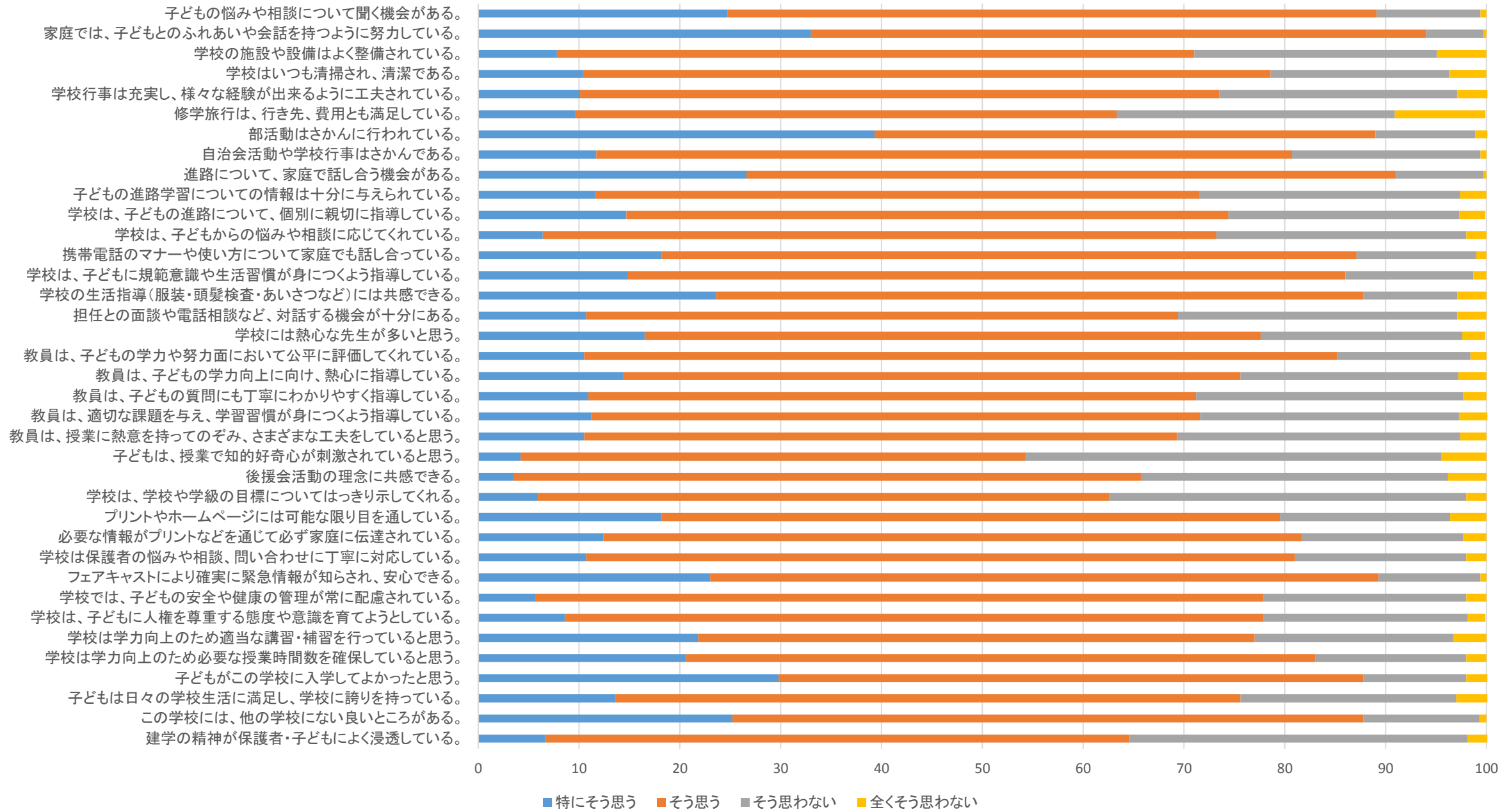
5 学校関係者評価

1. グローバル人材の育成の観点から、英語に力を入れているのは評価できる。来年度に向けたアメリカ3か月留学、オーストラリア1週間交換ホームスティなど新しい取り組みに期待する。
2. ティバートをさらに進めるために専門の方に授業をしてもらったことが、教員には素晴らしい研修になった。
3. 授業をお互い見合い、合評する文化が育ちつつあるのはいいことだが、これからは学内でどれだけ真剣な研修ができるかだ。
4. 大学入試の結果は去年の維持となった。次年度に向けて更なる飛躍を切に願う。
5. 自転車通学の生徒のマナーを向上させるために、警察などと協力し「交通安全教育」の機会を見つけては実施すべきだ。
6. 今年度はクラブ、自治会など「美化運動」の活動を通じて近隣住民とコミュニケーションを取っていくことができ、一歩前進した。

6 財務状況

別紙参照

2015年度 生徒対象 学校評価アンケート



2015年度 保護者対象 学校評価アンケート

